



2023年2月7日

報道関係者各位

慶應義塾

慶應義塾ミュージアム・コモンズ 展覧会開催 (3/6~4/27) 構築される「遺跡」: KeMCo 建設で発掘したもの・しなかったもの

「遺跡」とはなんですか？「遺跡」は人々の活動の痕跡が存在する場所であり、その内容は発掘によって明らかになるものです。慶應義塾ミュージアム・コモンズ (KeMCo) の活動拠点となる三田キャンパス東別館建設に際し、2018年から2019年にかけて慶應義塾が行った発掘では、縄文から江戸時代に渡る多くの記録と遺物を得ました。しかしながら、それはこの地に残る痕跡のすべてではありません。発掘とは痕跡を選択する行為であり、「遺跡」「歴史」は選択により構築されていくのです。展覧会では、選択による成果である発掘された遺物と調査内容を展示するとともに、選択しなかったものにも注目しご紹介していきます。

また、「遺物」をキーワードに現代美術家・山田健二氏と協働したプロジェクトの映像インスタレーションも公開いたします。

本展覧会が、さまざまな角度から「遺跡」「歴史」のあり方を再考する機会となれば幸いです。

1. 基本情報

- 会 期 : 2023年3月6日(月)~4月27日(木)(土日祝休館)
特別開館 3月18日(土)、4月22日(土)
(臨時休館 3月13日(月)、4月17日(月))
- 会 場 : 慶應義塾ミュージアム・コモンズ (三田キャンパス東別館)
開館時間 : 11:00-18:00
入 場 : 無料
- ※詳細は KeMCo ウェブサイトをご確認ください。 <https://kemco.keio.ac.jp/>

2. 展覧会の概要

「遺跡」とはなんだろうか。一般には、歴史的過去に属する人々の活動の痕跡が存在する場所をいう。痕跡の多くは地中に埋もれている。だから、「遺跡」の内容を明らかにするには発掘が必要になる。

慶應義塾はミュージアム・コモンズ (KeMCo) の建設にあたり、この地に残る痕跡を対象とする発掘を行った。工事で失われる前にその記録と遺物を将来に残すためである。この発掘で私たちは縄文時代から江戸時代に至るさまざまな痕跡を見出し、多くの成果を得た。

一方、私たちはこの地に残る痕跡をすべて発掘したわけではない。例えば自然現象の痕跡、近代以降の痕跡は対象にしなかった。発掘は実のところ痕跡を選択する行為であり、「遺跡」とそこで語られる「歴史」はその選択により構築されるものでもある。

この展覧会では、選択によって得た成果とともに、選択しなかったものにも目を向ける。構築された枠組みをいったん外してみることで、「遺跡」と「歴史」のあり方を問い直す機会としたい。

3. 主な出品資料

1. 高坏形土器 (弥生時代後期・2~3世紀): 東海西部の土器の特徴が見られる。
2. 円面硯 (奈良時代・8世紀): 文書行政の証拠。荏原郡内初の出土例。
3. 渥美産・常滑産陶器 (鎌倉時代・12~13世紀): 一般的な村落からはあまり出土しない大甕と三筋壺。

4. 漆器（江戸時代・17世紀）：大名屋敷の廃棄物。町屋では近隣の大名屋敷から廃棄物を受け入れることがあった。
5. 「三田二町...」銘瓶（江戸時代・18世紀～19世紀）：調査地点である「三田二丁目」で使用されたことが明らかな瓶。
6. 「うちた」銘徳利（江戸時代・18～19世紀）：この地が内田屋という酒屋だったことをうかがわせる。
7. 日吉の学食食器（戦中～戦後）：慶應義塾史的観点からみた重要資料。日吉キャンパス構内の遺跡から出土した。
8. 発掘時の様子：調査区西側の発掘。
9. 発掘時の様子：弥生時代竪穴住居跡高坏出土状態。
10. 発掘時の様子：古墳時代竪穴住居跡調査。

1-7. 撮影：村松桂（株式会社カロワークス）
 8-10. 提供：慶應義塾大学民族学考古学研究室

展覧会の構成(予定)

Room1 三田二丁目町屋跡遺跡の発掘成果

- 01 発掘のあらまし
- 02 地形の形成過程を調査する
- 03 弥生時代～古墳時代：道が集落をつくる
- 04 古代～中世：人とモノが行き交う
- 05 近世：垣間見える町屋の暮らし

Room2 構築される「遺跡」

- 06 KeMCo で発掘したもの・しなかったもの
- 07 日吉キャンパスで発掘したもの・しなかったもの
- 08 三田山上は「遺跡」なのか
- 09 三田キャンパスで過去の痕跡を探す



1



2



3



4



5



6



7



8



9



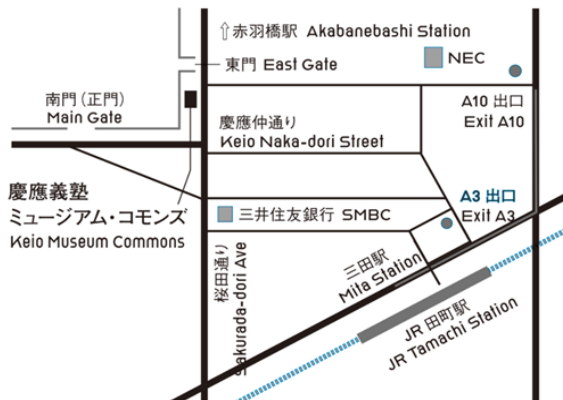
10

4. 関連プログラム

1. プロジェクト | Mita Intercept_ (山田健二) [展示] (東別館 1F エントランスホール)
慶應義塾ミュージアム・commons建設前に発掘された遺跡を市民と学生が混交する架空の入会地として、美術家山田健二により制作されたパブリック・アート「Mita Intercept_」。そのプロジェクトスペースで行われた遺物を現代にリアクティベートする為のワークショップの記録を、開かれた発掘を継続する為の映像インスタレーションとして公開します。
2. 考古学と現代美術をめぐるミニトーク
安藤広道 (慶應義塾大学文学部教授) × 山田健二 (美術家)
日時：2023年4月14日(金) 19:00-20:30
会場：慶應義塾大学 三田キャンパス G-Lab (東館 6階)
どなたでもご参加いただけます (入場無料、事前予約制)
※詳細は KeMCo ウェブサイトをご確認ください。 <https://kemco.keio.ac.jp/>

5. 会場案内

会場：慶應義塾ミュージアム・commons (KeMCo)
住所：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
慶應義塾大学三田キャンパス東別館
交通アクセス：田町駅 (JR 山手線/JR 京浜東北線) 徒歩 8 分
三田駅 (都営地下鉄浅草線/都営地下鉄三田線) 徒歩 7 分
赤羽橋駅 (都営地下鉄大江戸線) 徒歩 8 分



6. 主催・運営

主催：慶應義塾ミュージアム・commons、慶應義塾大学民族学考古学研究室
協力：トキオ文化財株式会社

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社文化部等に送信させていただいております。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾広報室 (豊田)

TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640

Email : m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>